郡山市立富田中学校　校長室通信　No.5　2016. 1. 8

富田の丘から

校章の由来（昭和６１年制定　作者　板橋新四郎氏）
　三枚の「榎（えのき）」の葉は、本校の教育目標の三本柱「知」「徳」「体」を象徴している。また、左右の黒い部分は、はるかに仰ぎ見る磐梯山、安達太良山を象徴し、学力と体力の向上を表しています。
「榎」の由来　　富田郷土誌によると、「富田」の地名は、田穀豊穣を願って命名され、地域の人々は農業神として日吉神社を建立し、信仰してきました。その御神木が「榎」です。校章のシンボルとして「榎」の葉を配したのは、富田の地名に由来したものです。

飛躍する力をつける３学期に！

　平成２８年がスタートしました。今年もよろしくお願いします。今の時期だからこそ抱負を持ち目標を定め、４月からの新しい学年や新しい生活に向かう力をつける３学期に期待を込め、次のように話をしました。

　明けましておめでとうございます。

◆「再生願望」

　新年に当たり毎年、確かめたい言葉があります。それは、「再生願望」と言う言葉です。誰もが新しい年の初めに抱負を持ち目標を立てて、「こんなことをやってみたい」とか「できるようにしたい」と願うものです。まずは４月のそして１年後の自分の姿を想像して、一日一日その姿の実現に向かって学校生活を送っていきましょう。

◆「めでたい」に込める想い

　さて、なぜ新年は「めでたい」のでしょうか。テレビの大河ドラマで取り上げられた吉田松陰は、獄中から妹に宛てた年賀状に次のように書いたそうです。『めでたいの「め」は、木の芽草の芽のことだ。草木の芽は冬至から一日一日、陽気が生じるにしたがって萌えいずる。つまり「めでたい」とは、草木が芽を出したいと願う、その気持ちを指すのだ』と。皆さんのような若木が、これから迎える春の暖かく眩しい光を浴びて、それぞれの場で芽吹いて欲しいと願っています。

◆温かい「相手を想う気持ち」に灯を灯す

　今日から始まる３学期は、１年の始まりであるとともに、それぞれの学年の締めくくりの学期でもあります。４月からの新しい学年や卒業後の新たな生活に向けて力を蓄え、飛び立つ準備をする学期でもあります。そのためにも今やるべきこと、やらなければならないことを、着実に実践して行きましょう。その基礎となるのは、何と言っても望ましい人間関係の中で進められる学校生活です。私は、皆さんの心の痛みを聞いたときが一番暗く重い気持ちになります。再度一人一人の心に「相手を想う気持ち」を温かく灯してください。

◆感動的な卒業式を創る

　結びに、３年生に激励のことばを贈ります。皆さんはそれぞれの小学校での６年間の教えを胸に富田中学校に入学し、間もなく中学校３年間そして義務教育９年間を終えようとしています。富田中学校創立３０年目の卒業生として、「高い規範意識を持つ質の高い集団」の姿を具体的に、１年生２年生にそして私たちに見せてください。富田中学校の感動的な卒業式を一緒に創りましょう。
　全校生が温かい「相手を想う気持ち」を心に灯し、「高い規範意識を持つ質の高い集団」をつくる皆さんの姿に期待して、始業式の話とします。